

地域特性によって社会資源が限られた中で進路選択を迫られるケース

| 圏域 | 夷隅 | センター名 | | ピア宮敷 | | | |
|---------------|---|---------|------------|--------|-------|-------|---|
| 氏名 | E・Y | 居住形態 | | 家族同居 | GH | 单身 其他 | |
| 手帳種別及び等級 | 精神保健福祉手帳 3級 | 年齢 | | 59歳 | 性別 | | 男 |
| 成育歴および現在の生活状況 | <p>S市で生まれ、家族の都合で幼少期にT市に引っ越す。高校は行かず、製管板金関係の専門学校に進学。17歳時に交通事故に遭い頭部外傷。18歳で頭部を手術し療養生活を送っていた。その後、様々な職には就くものの転々とし、飲食関係の仕事は環境があったようで長く就いている。35歳で結婚し、I市内に住まいを設け子どもが1人できる。</p> <p>43歳頃から抑うつ的になり精神不安定で病院に受診。自律神経失調症と診断される。ノイローゼ気味になりてんかん発作も見られ、精神科に短期間入院している。この時期に障害者手帳の取得を勧められ、取得に至っている。</p> <p>次第に、家族とも上手くいけなくなり離婚。父親の実家があるS市へ転居。父親の自営業（土木関係）を手伝うが、倒産し無職。その後、就労継続支援B型事業であるK事業所を利用。平成30年に就労支援を受け、M社に勤務。K事業所が就労定着支援事業も行っていたことから、K事業所の就労定着支援を利用。しかし、労働環境がE・Yの意向に沿わないことから転職を検討し始め、K事業所からナカポツセンターへ相談があり、転職先のO社への就労支援を実施している。</p> | | | | | | |
| 就業前の訓練事業所 | K事業所 | サービスの種類 | 就労継続支援B型事業 | 期間 | 2年5カ月 | | |
| 就職先 | O社 | | 入社日 | R2.7.1 | | | |
| 業務内容 | 清掃業務 | | | | | | |
| 就業先企業情報 | <p>業種：清掃 従業員数：50名 障害者雇用歴：法定雇用率を達成するために初めての雇用。どう取り組めば良いか手探りながらも継続して働いてもらいたいという配慮は感じられる。 その他：全社員に障害者雇用の周知をしており、丁寧な対応を心掛けている。</p> | | | | | | |
| 就業前の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・実家の両親の介護をしながら働いているため、生活面での悩みを相談する場所を探している。 ・以前飲食店では店長もしていたことから、慣れてくると同僚に対して上から目線のような言い方をしてしまうことがある。 | | | | | | |
| 就労定着支援個別支援計画 | 別紙支援計画添付 | | | | | | |

| | |
|--|--|
| <p>課題解消に向けた 支援体制</p> | <p>The diagram illustrates the support system for problem resolution. On the left, O企業 (Company O) and K事業所 (Business K) are connected by a '連携の輪' (circle of cooperation). O企業 provides '求人紹介' (job introduction) and '雇用' (employment) to 相談者 (Consultant), while K事業所 provides '相談' (consultation) and '支援' (support). 相談者 interacts with ハローワーク (Hello Work) and ナカポツセンター (Naka Potso Center). A '引継ぎ' (handover) arrow points to the right, where 就労定着支援事業所 (Job-stabilization support center) and ナカポツセンター are involved. 就労定着支援事業所 provides '相談' and '支援' to 相談者, who in turn provides '相談' and '支援' to O企業. ナカポツセンター provides '連携' (cooperation) to 就労定着支援事業所 and '支援' and '相談' to O企業. 相談者 also provides '雇用' to 相談支援専門員 (Specialized consultation support staff).</p> |
| <p>障害者就業・生活支援 センターと就労定着支 援事業所間の 連携経過</p> | <p>相談ときに勤務していたO社が給与未払いで生計が立たない状況であったことから、緊急の相談としてK事業所から話があった。当時O社から障害者雇用での求人について相談を受けていたことから転職支援を行っている。関係者全員で情報共有と役割を決め、短期間での転職を目指す。短期集中の支援となることから情報共有は密に行ってきた。</p> <p>転職後、再度就労定着支援を利用したいというE・Yの希望から、O社、K事業所、ナカポツセンター間で引継ぎを行う。就労定着支援を実施していく中でK事業所が来年度就労定着支援事業を終了する予定と連絡を受け、ナカポツセンターがその後の定着支援を行う方向で現在調整中。</p> |
| <p>具体的支援経過</p> | <p>R2.4 K事業所、相談支援事業所、E・Yと関係者が集まりケース会議実施。転職先としてO社を紹介。転職に向けての各自の役割を確認。</p> <p>R2.5 O社へ転職。今後の就労定着支援体制を三者間で確認。直接的な就労定着支援はK事業所が担当。ナカポツセンターは一步引いた立ち位置とし、何かあれば対応することを約束。</p> <p>R2.10 K事業所から、今年度で就労定着支援事業を終了することになるので今後の就労定着支援について引き継げるかという相談を受ける。事業終了にあたり、O社とE・Yへ引継ぎと説明をする。12月に関係者を集めてのケース会議を予定。E・Yにもその際に今後の予定について説明をする。</p> |
| <p>現在の状況及び 支援効果</p> | <p>現在は安定して仕事ができおり、O社からの評価も高いが、慣れにより、言動に変化が生じる可能性がある。よって、三者間でそのような兆候が見られた際の対応について共有している。生活面での悩み（両親の介護）は時折発生するようだが、適宜相談対応することにより、職場生活への影響は生じていない。</p> |

| | |
|------------------------------------|--|
| <p>障害者就業・生活支援センター側からの支援・連携上の課題</p> | <p>相談を受けた当時は生活が厳しく、早急な対応が求められるところから始まった。K事業所および相談支援専門員からのアセスメント情報が的確だったこと、両事業所がE・Yに対して「信頼できるナカポツセンターである」とフォローをしてくれたことから、関係性の構築と企業への紹介をスムーズに行うことができ、早期の転職が実現できた。圏域としてただ一つの就労定着支援事業所であったことから、閉鎖に伴い、E・Y以外の支援も依頼をされている状況。『就労できる企業が少ない 就労移行支援事業所や就労定着支援事業所が実績が作りづらい 事業所の閉鎖』と過疎地域における就労支援の負の連鎖が見られており、事業所の経営に大きな影響が表れている。</p> <p>今後この地域の就労定着支援に関しては、現状のままだとナカポツセンターが一手に引き受けていかざるを得ない状況が課題となっている。</p> |
| <p>就労定着支援事業所からの要望・意見</p> | <p>職員及び利用者の確保が困難等の理由により、事業所を閉鎖せざるを得ない状況になってしまったことについて、大変申し訳なく思っている。これまでナカポツセンターとの連携が上手にできていなかったが、今回相談させてもらった際に、素早い対応をしてもらってとても助かった。特に、転職に対して役割を決めてもらえたことで、転職支援とその後の定着支援、及びスムーズな〇社への引継ぎができたと考えている。</p> |

個別支援計画

| 氏名: | 障害種別: 精神障害 (精神三級) | | | |
|----------------|--|--------------------------------------|--------------------|----|
| 総合的支援の方針 | ご本人の転職支援を行い、その後の定着支援を定着支援事業所と連携して実施していく。 | | | |
| 第一期計画 | 関係機関との情報共有。早期の連携体制作り。 | | | |
| 第一期目標 | 転職し継続して定着支援を実施していくこと。 | | | |
| 課題 (希望) | 目標 (期限) | 支援内容 | 支援実施機関の役割分担 | 備考 |
| 転職をしたい | 令和2年5月 | 希望する条件を聴き取り本人と企業を探し転職のための助言、同行を実施。 | 障害者就業・生活支援センターピア宮敷 | |
| 退職についてフォローがほしい | 令和2年4月 | 転職前の給与未払い企業について退職の意思表示の仕方などのフォローを行う。 | 就労定着支援事業所K事業所実施 | |
| 家族の相談を聞いてほしい | 令和2年9月 | 日々の家庭での悩みについて相談を受け適切な助言を行っていく。 | 計画相談支援事業所R事業所実施 | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

特記事項

上記計画に基づき、支援を開始することに同意します。 令和 年 月 日

支援対象者(署名):